

## 中世の石敷き遺構や道路跡を検出

### ～高向遺跡の発掘調査成果～



河内長野市教育委員会と(公財)大阪府文化財センターで進めている高向遺跡の発掘調査において、中世のものと考えられる石敷き遺構、築地塀の跡、地鎮祭の跡、道路の跡が検出されました。これらの遺構については、付近にある天野山金剛寺遺跡でも同様のものが検出されていることから宗教施設である可能性が高いと考えられます。

また、今回の調査成果に関する現地説明会を、10月25日(水)午後2時から開催する予定です。

#### 1. 概要

河内長野市教育委員会と(公財)大阪府文化財センターでは、高向・上原土地区画整理事業に伴い、令和5年3月から高向遺跡の発掘調査を進めています。

発掘調査を進めている地点は、中世に皇室の荘園である高向庄があった場所であり、鎌倉時代に描かれた荘園絵図も残っています。今回、石敷き遺構が確認された場所は、江戸時代の資料からかつて神社が存在していたことが分かり、今回検出された遺構との関係がある可能性が高いと考えられます。

#### 2. 高向遺跡について

高向遺跡は、飛鳥時代から室町時代にかけての複合遺跡であり、これまでの調査では、遺跡の南部において、古代の建物跡、溝などが見つかっていました。これに対して遺跡の北部では調査件数が少なかったことから、今回の調査によって中世の遺構が検出されたことは、高向庄の実態解明に向けて大きな意味があります。

#### 3. たこうのしょう高向庄について

鳥羽天皇が建立した京都市伏見区にある<sup>あんらくじゅいん</sup>安楽寿院の荘園であったもので、皇室を支える領地として、中世に相伝されました。同寺に残る文書には高木、峰■(判別不能文字)河(石川のことと考えられます)、和泉横道、檜谷(高向と上原町の境にあった谷を指しているようです。)に囲まれた範囲を高向庄として、税の一部を免除することが記されています。

#### 4. 今回の調査成果について

##### (1) 石敷き遺構

発見された石敷き遺構は、長さ18.5mにわたって続いており、大部分は調査区外に続いていくものと考えられます。20cm～50cmの大きさの石列の内側に5～10cmの石が敷き詰められています。石敷きの中からは、中世土器が出土しており、

形状の特徴から室町時代のものと考えられます。

同様の遺構は、天野山金剛寺遺跡でも発見されています。これは、僧侶が日常生活などを行う施設である子院跡の敷地でみつかったものです。なお、高向庄には絵図によると、金剛寺の子院が権利を有する土地も存在しており、関係が深かったこともわかっています。

## (2) 道路状遺構

発見された道路状遺構は、幅1.5m、長さ9.6mにわたって続いており、大部分は調査区外に続いていくものと考えられます。敷かれている石は20～30cm程度のもので、道路側溝などは見つかりません。

## 5. 現地説明会

### ○日時

10月25日(水) 午後2時～午後4時(小雨決行・荒天中止)

### ○場所

高向遺跡調査現場(河内長野市高向地内)

### ○受付場所

現地(地図参照)

### ○申込など

事前申込不要、入場自由、参加費無料

### ○交通

南海高野線河内長野駅下車 南海バス天野山線「水落」下車

※現地に駐車場はありません。

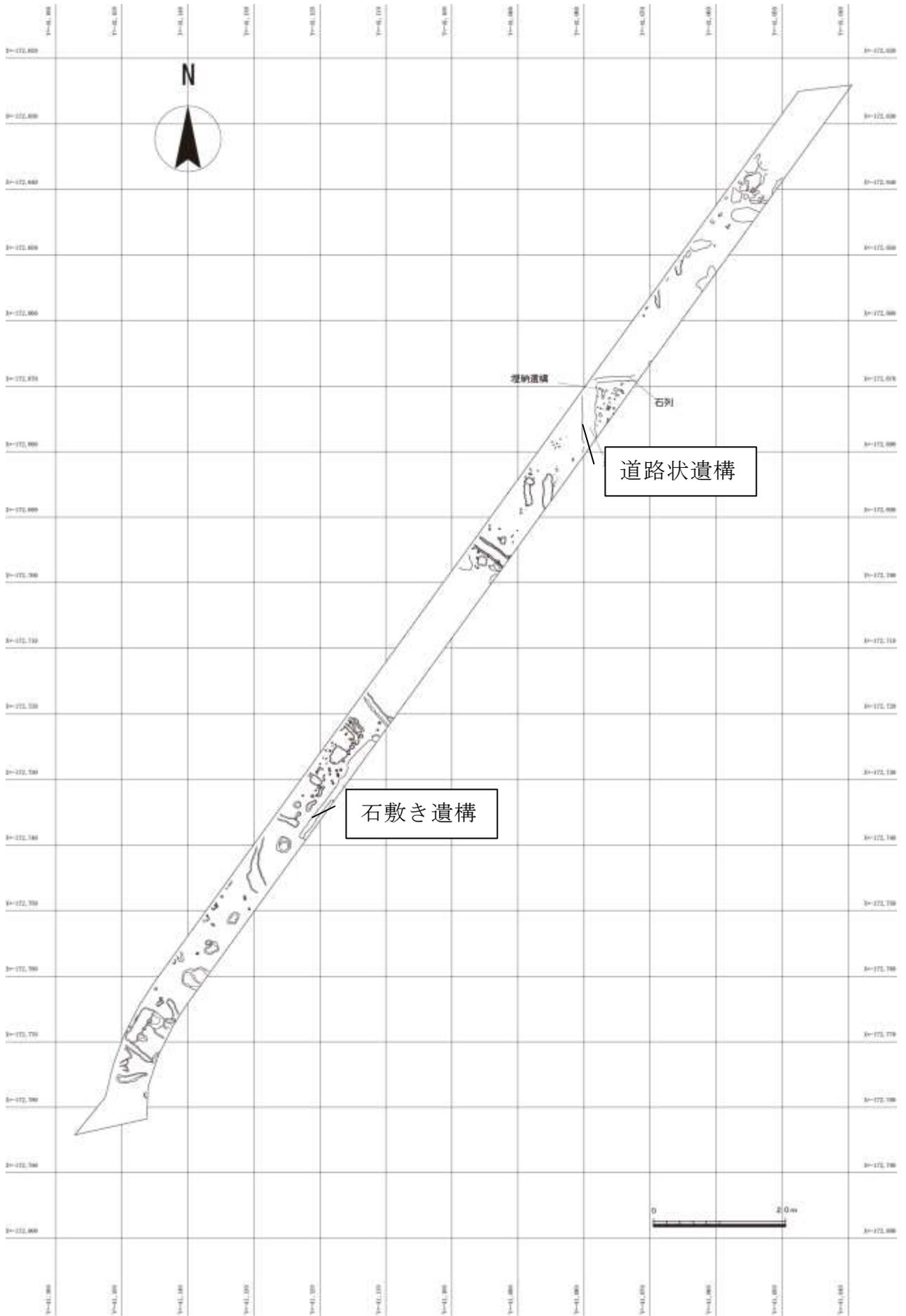
## 【問い合わせ】

河内長野市立ふるさと歴史学習館

電話：0721-64-1560 (月曜日休館)



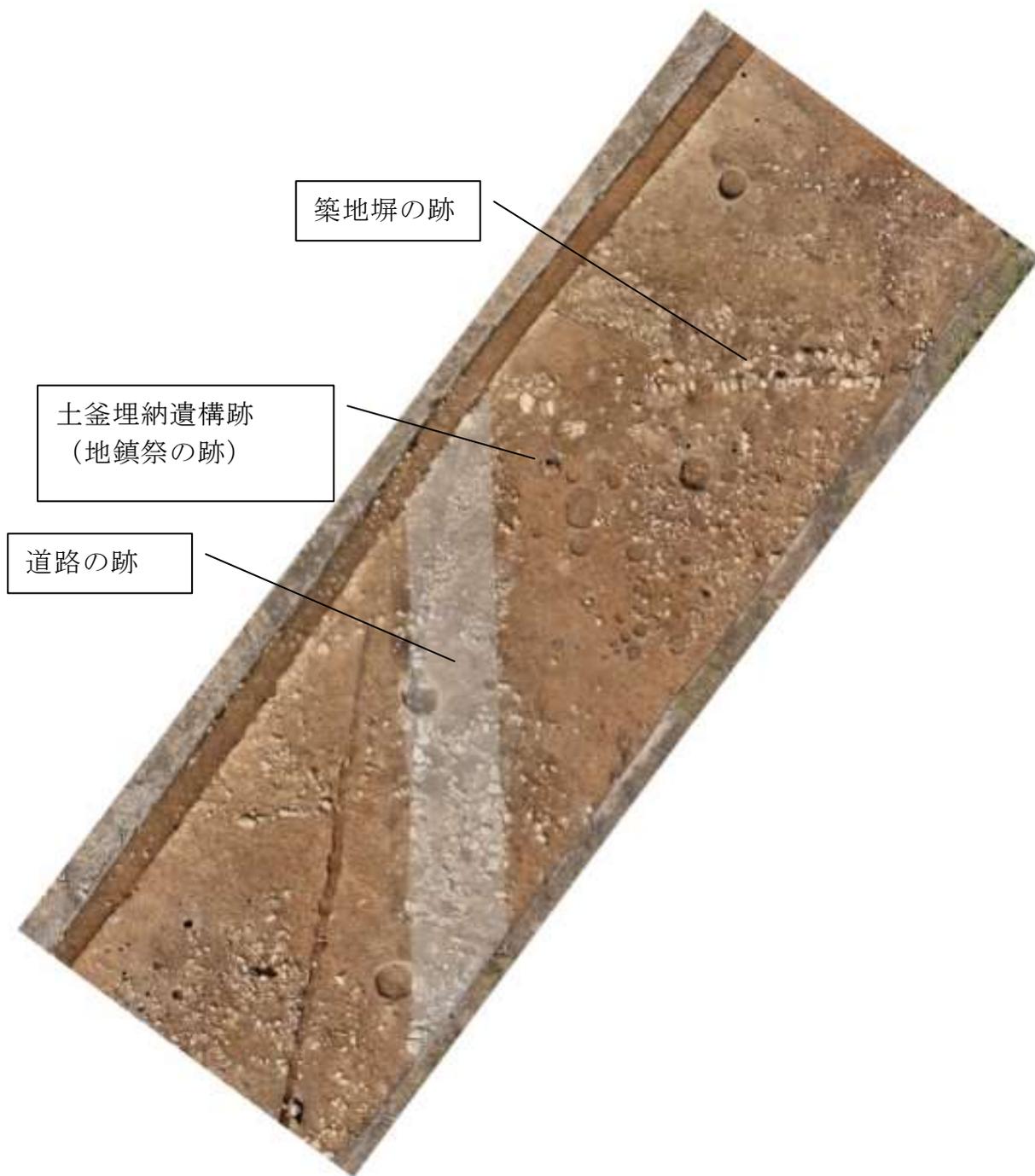
①現場位置図



②調査区平面図



③石敷き遺構写真



④道路の跡、築地塀の跡、土釜埋納遺構（地鎮祭の跡） 写真



⑤石敷き遺構写真



⑥道路の跡・築地塀の跡・土釜埋納遺構（地鎮祭の跡） 写真



⑦道路の跡 写真



⑧土釜埋納遺構写真（地鎮祭の跡）



⑨天野山金剛寺遺跡 石敷き遺構写真（参考）